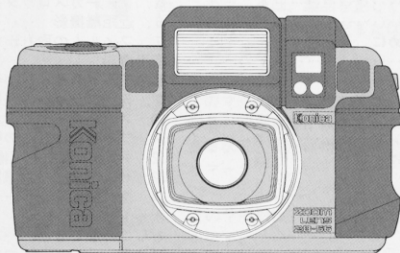
Konica

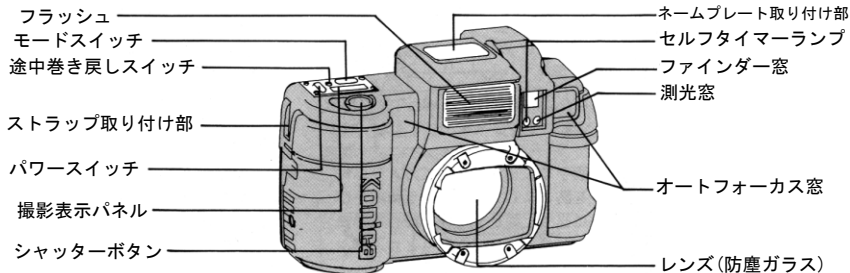
現場監督ズーム

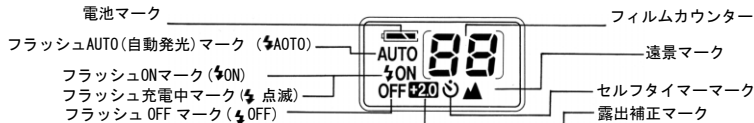
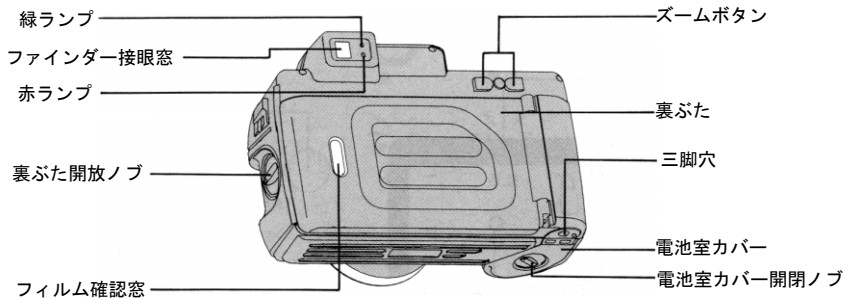
工事専用カメラ

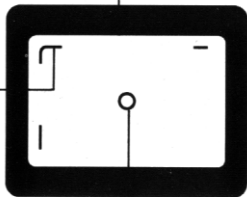
28-56mmズームレンズ・防水・防塵・防砂・耐ショック

使用説明書

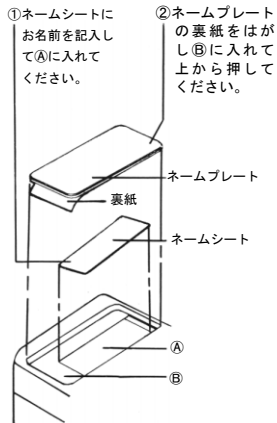
ご使用前に必ずお読みください。

各部の名称

フラッシュ
モードスイッチ
途中巻き戻しスイッチ
ストラップ取り付け部
パワースイッチ
撮影表示パネル
シャッターボタン
ネームプレート取り付け部
セルフタイマーランプ
ファインダー窓
測光窓
オートフォーカス窓
レンズ(防塵ガラス)

撮影表示パネル(図はすべての液晶を点灯状態で示してあります。)

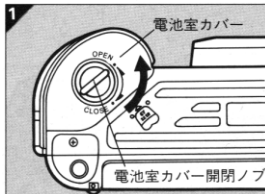
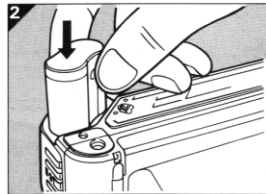
緑ランプ
ファインダー接眼窓
赤ランプ
裏ぶた開放ノブ
フィルム確認窓
ズームボタン
裏ぶた
三脚穴
電池室カバー
電池室カバー開閉ノブ

ストラップの取付け方

ファインダーと表示ランプ

縁ランプ
(点灯)AE・AFロック完了
AE＝自動露出
AF＝オートフォーカス
(点滅)近距離警告

ネームプレートの取付け手順

この説明書は下記のマークを使用しております。

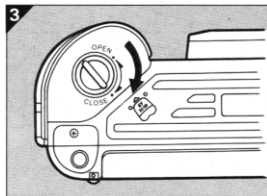
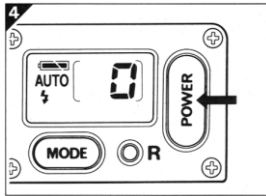
撮影準備

1
まず電池を入れてください

カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布で拭き落としてから、電池室カバーをはずしてください。内部に水滴や砂が入ると故障の原因になります。

電池室カバー開閉ノブを指でつまみ、OPENの矢印方向に回して、開閉ノブとOPEN側の●印を合わせると、電池室カバーがはずせます。

電池をカメラ底部の表示に合わせて正しく入れます。

＊電池の接点側を奥にして入れてください。

＊使用電池はリチウム電池2CR5:6V、1コです。

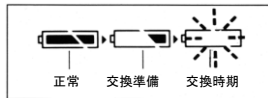
⚠警　告	爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱をしないでください。
⚠注　意	発熱発火の危険があります。指定外の電池を使用しないでください。

電池室カバーをはめ､カバーを押さえながら、CLOSEの矢印方向に開閉ノブを回して開閉ノブとCLOSE側の●印を合わせるとロックされます。

パワースイッチを押すと､撮影表示パネルに

（電池マーク）

AUTO（フラッシュAUTO）

0（フィルムカウンター）

が現われ電源ONになります。

＊パワースイッチをもう一度押すと電源OFFになります。電源OFFのときには電池マークだけ点灯し、他のマークは消灯します。

電池交換の時期

電池が消耗して、電池マークが2/3 白くなったら新しい電池と交換してください。

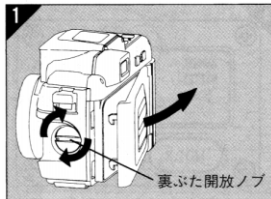
＊撮影途中で電池マークが 2/3 白くなったら、最後まで撮影したあと電池を交換してください。但し、連続のフラッシュ撮影を行なった場合、一時的に電池マークが 2/3 白くなることがあります。この場合、しばらく時間をおき、パワースイッチを再度入れてください。電池マークが黒く点灯すれば、電池はまだ正常です。

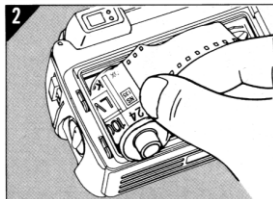
＊万一撮影中に電池マークが全部白くなり点滅すると、シャッターはきれません。

＊使用済みの電池はカメラ店または電気店にお持ちください。

撮影準備

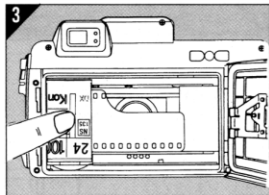
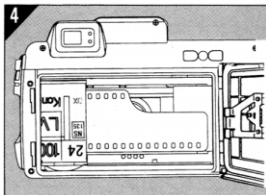
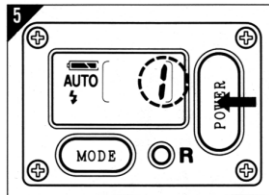
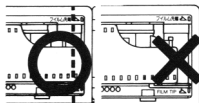
2
フィルムを入れてください

カメラに水滴や砂などが付いていたら、乾いた布で拭き落としてから裏ぶたを開けてください。内部に水滴や砂が入ると故障の原因になります。
コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

裏ぶた開放ノブを矢印方向に回転し裏ぶたを開けます。

＊リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度(ISO)と同一感度のフィルムをご使用ください。

フィルムを入れます。

＊DXコード付きの35mmフィルムを使用します。フィルム装てんと同時に使用フィルムの感度が自動セットされます。DXコードのないフィルムはすべてISO25に設定されます。

使用フィルム感度のDX導入感度

DX導入感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度 (ISO)	25 32 40	50 64 80	100 125 160	200 250 320	400 500 640	800 1000 1250	1600 2000 2500	3200 — —

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押して入れ、フィルムが平らに出るようにします。

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク( )に合わせて、裏ぶたを閉じます。

パワースイッチを押すと、フィルムは1枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

＊DX導入感度がISO 25のフィルム使用の場合は、電源OFF状態にし、モードスイッチを押したままパワースイッチを押してください。

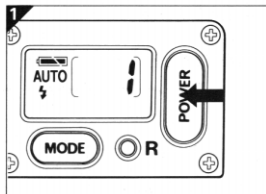
フィルムが送られていないときは

フィルムカウンターが0のまま点滅します。

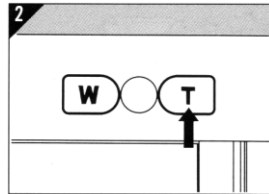
裏ぶたを開けてフィルムを入れ直してください。

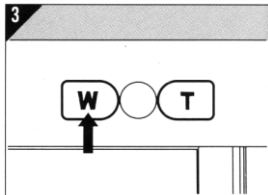
基本撮影

3
いよいよ撮影です
ϟAUTO

すべての撮影に共通する
基本的な撮影の手順です。

パワースイッチを押してください。電源ONとなり、ϟAUTO、1(フィルムカウンター)が点灯します。

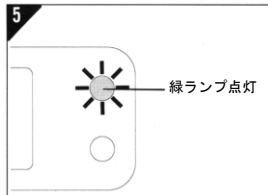
＊電源 OFF 時には電池マークだけが点灯しています。

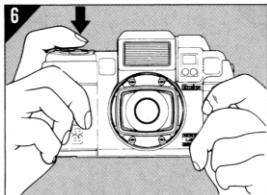
＊防塵ガラスおよびオートフォーカス窓の汚れにご注意ください。もし汚れたらきれいに拭きとってください。

ファインダー接眼窓をのぞき、ズームボタンのＴ側を押すと、画面が望遠側に移動します。希望の構図になったとき、指を離して止めてください。

*レンズは望遠56mmまで移動します。

ズームボタンのW側を押すと、画面が広角側に移動します。希望の構図になったき、指を離して止めてください。

*レンズは広角 28mm まで移動します。

* 被写体を大きくしすぎた場合、画面を広角側に戻すなど、構図の調整が迅速にできます。

ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

* 緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがきれません。
* 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯するので、写される人にも撮影のタイミングがわかります

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。
＊続けて撮影しないときは、パワースイッチを押して電源 OFF にしてください。
＊電源ONのまま放置しても、約15分後には自動的に電源OFFとなります。

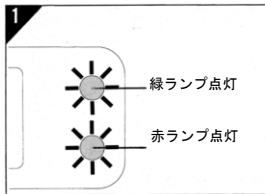
日中撮影の距離

焦点距離	撮 影 距 離
28mm〜56mm	0.8m ⟷ ∞

基本撮影

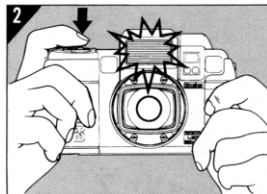
4 自動フラッシュ撮影 ϟ AUTO

暗いときフラッシュが自動的に発光します。

＊大光量フラッシュのため空中のほこりなどがフラッシュ光により反射物として、写る場合があります。

シャッターボタンを半押しして、緑ランプと共に赤ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

フラッシュ撮影の距離

(ネガカラーフィルム使用の場合)

焦点距離	フィルム感度	撮影距離
28mm	ISO 100	0.8m〜10m
	ISO 400	0.8m〜20m
56mm	ISO 100	0.8m〜5.2m
	ISO 400	0.8m〜10.4m

シャッターボタンをいっぱいに押してフラッシュ撮影してください。

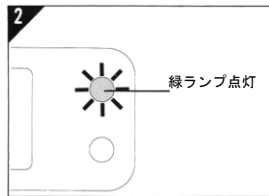
＊フラッシュ撮影後の赤ランプ点灯は、フラッシュの充電中ですからシャッターはきれません。

＊フラッシュは発光すると高温になります。このため汚れていたり、手袋などが触れたままフラッシュ撮影をすると、フラッシュの表面が変質や変色をします。撮影の際にはフラッシュの表面の汚れを清掃し、手袋などが触れないようにしてください。

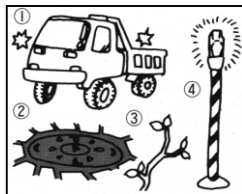
基本撮影

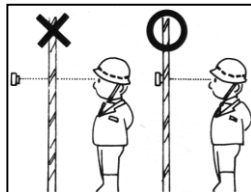
5
フォーカスロック撮影

ピントを合わせたい被写体が画面中央にないとき、フォーカスロック撮影をしてください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯してピント位置が固定されます。

* 緑ランプと同時にセルフタイマーランプが点灯します。
* 半押しした指をシャッターボタンから離すと、フォーカスロックは解除され、やり直しができます。
* フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをいっぱいに押して撮影します。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

①光沢のあるもの
②反射しにくい黒いもの
③小さいもの細いもの
④発光体
⑤雨、霧、煙等の実体のないもの

＊ガラス越しの撮影は、オートフォーカスが働かない場合がありますから、同じ距離のものに向けてフォーカスロックしてください。
また、ガラスに密着させても正しい測距ができます。

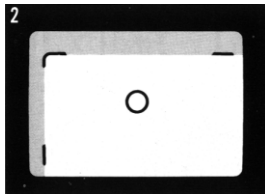
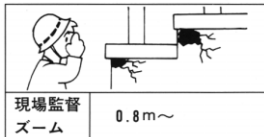
基本撮影

6
近距離撮影

近接した被写体が画面中央からはずれるときは、フォーカスロック撮影をしてください。

被写体に近づいてオートフォーカスフレームに入れてください。

近距離撮影の至近距離

現場監督 ズーム	0.8m〜

ファインダーの近距離補正マーク内で構図を決め、シャッターをきります。

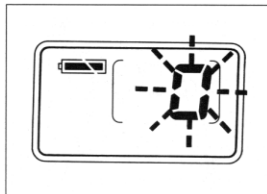
＊近距離補正マークは、1m 以内の撮影時にお使いください。

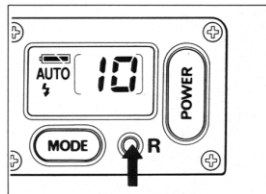
シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは…

至近距離より被写体に近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがきれません。半押しした指をいったん離し、少し離れて押し直してください。

基本撮影

7
フィルムの取り出し方

フィルムの規定枚数より多く撮影した場合、最終画面が重なることがあります。
写し終わったフィルムは、お早目にカメラ店に持参し「コニカカラー百年プリント」とご指定ください。

フィルムが最後になると自動的に巻き戻され、巻き戻し完了で停止します。フィルムカウンターの0の点滅を確認した上でフィルムを取り出してください。

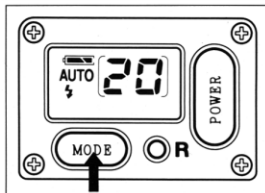
＊フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して逆算します。
＊裏ぶたを開けるとフィルム枚数計の0が一瞬点灯し、電源ONになります。

途中巻き戻しの方法

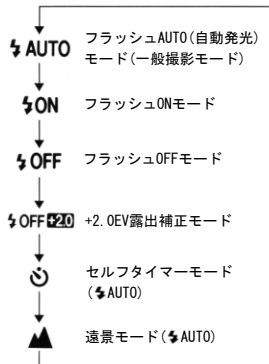
途中巻き戻し(R)スイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルム巻き戻しができます。

＊巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。
＊途中巻き戻し（R）スイッチをシャープペンシル等の鋭い先端部で押すと故障の原因となります。

応用撮影

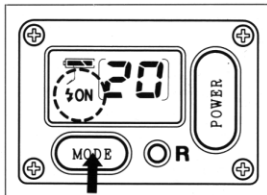
8
モードスイッチの切替え

被写体に応じて最適な撮影方法を選択できます。

モードスイッチを押すと、撮影表示パネル上に６つのモードが、順次表示され循環します。

＊通常は⚡AUTO になっています。
＊⚡ON、⚡OFF、⚡OFF +2.0、▲各モードは固定され、一度設定したモードで撮影を続けられます。撮影が終ったら ⚡TO に戻しておきましょう。
＊電源OFFにして再度電源ONにすると⚡AUTO に戻ります。

＊セルフタイマー撮影では、1コマ撮影後、フラッシュAUTOモードに自動復帰します。

応用撮影

9
日中フラッシュ撮影
⚡ON

（フラッシュONモード）
フラッシュが常時発光するモードです。逆光や室内窓際の被写体を明るくきれいに写します。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡ONを出します。

フラッシュ撮影

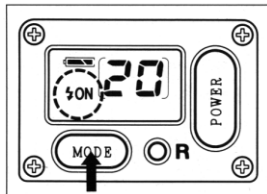
被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

＊シャッターボタン半押しで、緑ランプと同時に赤ランプが点灯します。

フラッシュなし

応用撮影

10
スローシャッターシンクロ
⚡ON

（フラッシュONモード）
夕方や夜間の撮影で､スローシャッターによるフラッシュ撮影が行われ､バックも被写体も共に明るく写せます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡ONを出します。

＊カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

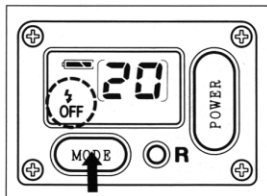
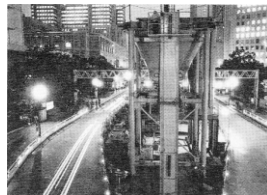
スローシャッターシンクロ

暗い場所で被写体に向けてシャッターをきれば、1/15秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

⚡AUTO のフラッシュ撮影

応用撮影

11
フラッシュなしの撮影
⚡OFF

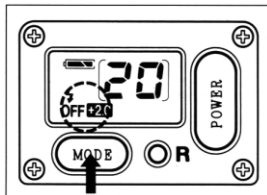
（フラッシュ OFF モード）
フラッシュが発光しないモードです。フラッシュ撮影が禁止されている美術館や都会の夜景撮影などにご利用ください。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに⚡OFF を出します。

フラッシュなしの撮影

被写体に向けてシャッターをきれば３秒までのフラッシュなしの自動露出撮影ができます。

＊シャッターボタン半押しで赤ランプが点滅したときは、カメラぶれの警告です。
＊カメラぶれをしやすいので、三脚をご使用ください。

応用撮影

12
＋2.0EV 露出補正撮影
ϟ OFF +2.0

（+2.0EV露出補正モード）
露出を多めにかけたいときに使うモードです。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに ϟ OFF +2.0 を出します。

＊明暗コントラストの強い建物など、風景の暗部を明るく写したいときにも、このモードを使ってください。
＊暗い場所では三脚を使用してください。

＋2.0EV露出補正撮影

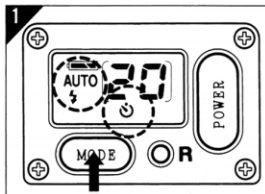
被写体に向けてシャッターをきれば、標準より約2.0絞り分明るい自動露出補正撮影ができます。

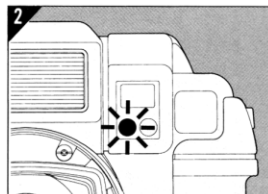
露出補正なしの撮影

応用撮影

13 セルフタイマー撮影

ꝏ

（セルフタイマーモード）
人手を借りずに、撮影者自身が作業をしている状況を撮影できます。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルにꝏを出します。

* セルフタイマーモードにセットすると、ꝏ、AUTO(フラッシュ自動発光)になります。
* 三脚をご使用ください。
* フォーカスロックもできます。

被写体に向けてシャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

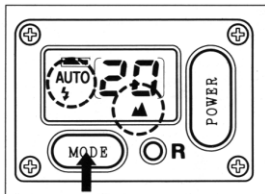
* 7秒点灯後、3秒点滅します。
* カメラの前から操作すると正しいピントが得られません。
* 撮影終了で一般撮影モードに戻ります。続けてセルフタイマー撮影する場合はセットし直してください。
* パワースイッチを押すと作業中のキャンセルができます。

応用撮影

14

遠景撮影

▲

（遠景モード）
ピントが遠景に固定されるモードです。日中の遠景撮影、特にガラス越しの遠景撮影に有効です。

モードスイッチを押して、撮影表示パネルに▲を出し撮影します。

＊遠景モードにセットすると、ϟ AUTO（フラッシュ自動発光）になります。

＊夜景や日没前後の夕景など、暗いときの遠景撮影では、フラッシュなしの撮影(31ページ)をしてください。

ガラス越しの風景を遠景撮影

一般撮影

オートデート

（オートデート付のみ）

2019年12月31日までの日付・
時刻を記憶し、画面に写し
込むことができます。

表示モードの切替え

表示切替えスイッチを押し年月日、
日時分、写し込みなしを選びます。

写し込みの位置が明るい場合、白い場合
は、デート文字がはっきり出ないことが
ありますからご注意ください。

日付・時刻の修正

1) 表示切替えスイッチで日付(時分)を表示します。
2) 選択スイッチを押して、修正する日付(時分)を点滅させます。
3) セットスイッチを押して、日付(時分)を点滅のまま修正します。
4) 選択スイッチを押すと点滅が点灯となり、一のマークが現われて写し込みの状態になります。

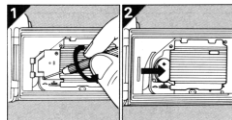
24 14:16

* 分を修正した後選択スイッチを押すと、: が点滅します。もう一度選択スイッチを押して写し込みの状態にしてください。
* 秒まで合わせるには、: の点滅時に時報に合わせてセットスイッチを押し、さらに選択スイッチを押して写し込みの状態にしてください。

オートデート用電池の交換

オートデート用電池として、リチウム電池(CR2025:3V)を使用しています。およその交換時期は一般的な撮影では約4年ですが、撮影枚数が多い場合は電池寿命は短くなります。プリントの写し込み文字が見えにくくなったら新しい電池と交換してください。

* 電池交換後は、日付・時刻を修正してください。

電池交換の方法

⚠警 告
- 爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱をしないでください。
- 誤って飲み込むと死亡の危険があります。電池は幼児の手の届かない所に保管してください。

おもな仕様

＊下記性能については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形　　式	レンズシャッター式ズームレンズ付き AF全自動35mmカメラ
画面サイズ	24×36mm
レンズ	コニカズームレンズ28mm F3.5〜56mm F6.7（5群6枚）レンズ前面に防塵ガラス
パワースイッチ	電源ONでオートローディング、シャッターロック解除、液晶点灯、約15分操作をしないと自動的に電源OFF、電池残量マーク表示。電源OFFでシャッターロック、電池マーク以外の液晶消灯、セルフタイマーキャンセル。
シャッター	絞り兼用プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、3秒〜1/360秒
焦点調節	赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲：0.8m〜∞、近距離ロック・フォーカスロック・遠景撮影可能
露出調節	CdS受光素子使用のプログラムAE、中央重点測光
露出連動範囲	ISO 100： f＝28mm EV2〜EV16 f＝56mm EV3.9〜EV16
フィルム感度	自動設定（ISO25〜ISO3200）
ファインダー	実像式ズームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク、ファインダーわきに緑ランプ（点灯：AF・AEロック、点滅：近距離ロック時）、赤ランプ（点灯：フラッシュ発光表示・充電中表示、点滅：フラッシュOFF時の低輝度連動外警告）
フラッシュ	手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲：ISO 100・f＝28mm 0.8〜10m、f＝56mm 0.8〜5.2m 発光間隔・5秒
モード切替え	フラッシュ自動発光、フラッシュON、フラッシュOFF、＋2.0EV露出補正、セルフタイマー撮影、遠景撮影の各モードを循環（液晶表示パネルに表示）
セルフタイマー	電子式、作動時間・約10秒、セルフタイマーランプが約7秒点灯した後に約3秒点滅、途中解除可能
フィルム給送	電動式、パワースイッチでスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	順算式、液晶表示パネルに表示
オートデート（デート付のみ）	液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、2019年までの年月日、日時分、月日年、日月年を表示秒単位まで修正可能、写し込みなしも選択可能
使用温度範囲	−10℃〜50℃
電池寿命	50%フラッシュ発光のとき約20本（24EX）
電　　源	リチウム電池（2CR5・6V）1本、オートデート用リチウム電池（CR2025・3V）1コ
防　　水	種類・JIS保護等級7（防浸形）、意味・定められた条件で水中に没しても内部に水が入らないもの、試験・水面下1mで30分水中に放置
大きさ	デートなし　146×93×76.5mm、デート付き　146×93×78.5mm
質量（重さ）	デートなし　470g、デート付き　480g（電池別）